



## 調布市防災教育の日 避難所訓練 4月28日(土)

今年の調布市防災の日は、ゴールデンウィーク連休直前の4月28日の土曜日。その前週発行の市報ちようふでは一・二面を使って、防災教育の日を大きく取り上げ、今年度は「避難所におけるトイレの確保と管理」をテーマとして実施すると、広く市民の参加を呼び掛けていた。

当日、布田小においても、早朝より当地区協メンバーと市役所からのサポート職員や布田小関係者らが、体育館とその周辺でアルファ米や会場設

営の準備に取り掛かった。大きな仕事は今年度のテーマに取り上げられた避難所トイレの組み立て。まず市職員と地区協メンバー数人で、後ほど訓練参加者に組み立ててもらおう見本を作ってみた。説明書を参照しながら、それでもやはり小一時間はかかった。



組上がった簡易トイレ



参加者で組み立て中

災害発生時には上水道が止まってしまうことも想定される。このため、避難所トイレから直接下水に汚物を落とすことができるマンホールトイレ



発掘された土製の耳飾り  
 (国の重要文化財)

下布田遺跡からは約二千五百年前、縄文時代晩期の土器や、国の重要文

### 身近にある 貴重な遺跡 下布田遺跡

ひな祭りの3月3日、布田小正門前に集まった協議会メンバー18人で、

のところが住居跡は見つかっていないが、多摩地域のみなならず南関東でも、このような集落跡がきちんとした形で残っている遺跡は少なく貴重なのです、と長瀬さんはお話して下さった。

その後、国史跡下布田遺跡保存活用計画策定委員会でのメンバーでもあ

下布田遺跡が位置している羽毛下通りの「ハケ」という語は、崖の地形を指す古語で、縄文時代に起源をもつ古い言葉という説もある。ハケの付近には湧き水が出ているなど、生活に欠かせない水源が近くにあったと考えられる。加えて、今でも遺跡の周囲に残っている雑木林には、当時オニグルミなどが多くあり、食



発掘作業中の下布田遺跡

「こども食堂」  
 先日、富士見町にある覚證寺の子ども食堂を見学した。夕方の五時ごろその会場に足を踏み入れた瞬間、いっぱいになる調理中の食べ物香りと、黙々と配膳準備するボランティアの皆さんの真剣な雰囲気一気に心を奪われてしまった。

友だち同士で食べながら談笑する子ども達。ゆったり静かに食事する親子。世代を超えてお手伝いをするボランティアの皆さん。そこには安心で安らぎのある優しさが満ち溢れていた。そして同時に食事をするといただきそれだけの行為にいろいろな意味の大きな可能性を感じた。

ここ数年全国的に盛んに実施されているこども食堂。それを生む社会的背景自体にも大いに関心を持つべきだが、地域でできることを優先で何かするの重要と感ずる。

さつそく準備委員会を発足させ今年中にトライアル的に実施できるように会議を重ねている。食を通じて地域に貢献できるように協力いただけるボランティアの方々も同時に募集中です。

皆さんが愛するこの地域への願いや希望がそこに住む全員の未来への光となるよう、当地区協へのご理解とご協力のほどをよろしくお願い申し上げます。

【2面に続く】

# 避難所訓練

(1面から続く)

が考えられているが、布田小にはそれに対応したマンホールは駐輪場わきの一つしか無いので、当面は体育館既存のトイレや避難所トイレで、携帯トイレ(プラスチック袋と消臭・凝固剤)を利用する方法を取るようになると思われる。地区協メンバの間では、プールのため水を使って流しても良いのではないかという意見もあり、改めて避難所でのトイレの問題の難しさを実感した。

そうしているうちに11時24分の訓練地震発生時間となり、体育館に待機していた保護者の方々は、いったん児童の引渡し訓練に向かった後、六年生児童と保護者および地域の方々を中心に、総数三六名の参加のもと避難所訓練を開始した。またジェイコム・ケーブルテレビの取材陣も到着し、訓練終了まで色々な場面を撮影していた。この内容は後日、ジェイコムの調布地



食糧調達班による配膳作業

域ニュースで放映された。

今回、布田小は起震車の派遣先に選ばれたため、いつもの調布消防署員によるAED、三角巾、非常担架による救命訓練に加えて、六年生の児童から順に震度6と7弱の地震体験をした。順番待ちをしている間は遊園地感覚だった子ども達だが、実際にテールの脚につかまっていたりも飛ばされそうな強い揺れに悲鳴をあげていた。

一方、男性の保護者の方には避難所トイレの組み立て体験をお願いした。また例年通り、調布南高校の防災活動支援隊12名の生徒さんのサポートもあって、避難者名簿の作成に始まった避難所訓練は午後2時には無事終了した。

避難所訓練の実行リーダーを務めた当地区協副会長の山本光則さんは「避難所訓練も回を重ねていくごとに慣れて手際が良くなる部分がある反面、毎回新たな発見があります。今回は特に避難所におけるトイレの問題を実践的に体験してみて、あって欲しくは

ないが実際の避難所運営に役立つ情報が得られたと思います。また、参加者の皆さんが自発的に段ボールの整理を下さったり、ごみの持ち帰りを徹底して頂いたおかげで、訓練の後片付けもスムーズに終わることができました。」と話してくれました。

以下に参加者の声をご紹介します。【①氏名②居住地区③参加家族人数④避難所訓練の感想⑤家庭での災害対策⑥地区協への要望】

①JKさん(匿名希望)②多摩川③2人④この訓練は、上の子供が6年生の時に一度経験しましたが、忘れていたことを思い出す良い機会だと思えます。⑤非常持出し袋、水、簡易トイレを含めて入れている。⑥タウン誌などで活動の内容を広報してほしい。

①望月修二さん②布田6丁目③2人④AEDや三角巾など、知識として知っていたが実際に使ったりすることは初めてだった。役に立つと思う。⑤水、缶詰などを備蓄



調布南高校の皆さん(上) 避難所訓練スタッフの皆さん(下)

# 下布田遺跡



計画策定委員会の様子

(1面から続く)

物にも困らなかつたのではないかと、つまり下布田遺跡の周辺は昔から暮らしやすいくところだったと思われる。今では、都心に近く急速に宅地化が進んだが、遺跡の敷地には草木の緑と開けた広場が残っており、我々周辺の住民にとっては自然が残る貴重な資産でもある。

このように身近にある遺跡について、その保存継承の役割を担う郷土資料館と

品として袋にまとめている。⑥特になし

①広瀬亮さん②布田5丁目③2人④アルファ米が思っていたよりおいしかった。避難所トイレの組立てに携わったが、人数が沢山いるより、リーダーを決めてその人の号令で皆が動く体制の方が大切だと思った。⑤日用品のストック⑥特になし

協働で、市民の目線で整備活用の計画を策定しようという上記委員会が、来年3月までの予定で定期的開催されている。7月2日に開催された最近の委員会では、郷土博物館分室の充実・遺跡案内立て札の整備といったハード面、縄文まつり・草木染(千色工房)の開催といったソフト面に加えて、災害時の一時避難所として利用できないかとの提案も検討されている。

下布田遺跡は、国の史跡に指定されている貴重な遺跡であると同時に、同じ地域に住む我々にとって気持ちのよい憩いの空間であり、万一の場合には安全な避難場所になるかも知れない。もっと遺跡に親しんでいただくと共に、今後の整備活用の方角性についても知っていただくために、今後折に触れて当紙面で報告していきたい。

①三宅秀美さん②港区③2人④私が住んでいる港区では見られない地域活動です。地域の方々だけでなく、んな活動ができるなんて、すごいなと思いました。⑤一年に一回必ずチェックすると決めているもの。非常持ち出し袋、車、家、それに消火器も。⑥素晴らしい一言

(取材・文 藤田秀雄)

7月初旬に西日本広域に豪雨災害が発生し、二百名以上の犠牲者が出てしまいました。亡くなられた方のご冥福をお祈りするとともに、被災された方々に心からのお見舞いを申し上げます。

この豪雨のほんの半月前に、調布市の総合防災安全課主催の防災講演会（6月23日）と、地域包括支援センターちよふ花園主催の地域ケア会議（6月29日）が開催され、いずれも水害をテーマとした講習であったのは、偶然のこととは言え時宜を得たものだった。

講習会の内容を当地区協の環境に当てはめ、更に西日本豪雨の報道内容などを考慮すると、市が発行している「調布市洪水ハザードマップ」をもう一度見直して、次の三項目につ

## 西日本豪雨を教訓に

西日本豪雨の被災地では、ハザードマップの浸水予測地域と深さが正しかったと言った報道もされている。

避難所については、洪水ハザードマップに記載されている公共施設に限らず、場所によっては近隣の三階建て以上の丈夫なマンションなどが、一時避難所としての利用に同意している場合もあるので、住民同士で確認しておくことが重要だ。

マイタイムラインとは、住民ひとりひとりが災害時に取りべき行動、例えば荷物をまとめる・避難準備をする・避難所に避難するなどの行動を取るべき時期の目安を、あらかじめ時系列にまとめておく計画書のこと。自宅周辺ではどの程度の浸水が予測されるのか、避難に時間のかかる家族がいるのか、あるいは避難所まではどれだけかかるのか、など住民ごとに条件が異なるので、ひな型はあったとしても最終的には

いて考えてみるのが重要だと思った。

●最寄りの避難所を確認する

●自宅から避難所への経路を複数考えておく（最短経路だけでなく）

●多摩川の水位上昇を想定した防災行動の目安として「マイタイムライン」を作っておく

調布市の洪水ハザードマップは昨年11月に更新されており、多摩川流域に2日間総雨量五八八ミリを想定したマップとなっている。今回の西日本豪雨で降水量の最大を観測した地点は、高知県馬路村の3日間で一キロリ超であり、流域と一地点を一概に比較することはできないが、現実には十分起こりえる想定であることが証明されたとも考えられる。また、

### 調布市の

### 洪水ハザードマップ

を見直そう

個別の検討が必要だ。当地区協地域内でのマイタイムラインは、内水型の浸水（河川から離れたところでも諸々の原因で発生する浸水）は正確な予測も難しいため、多摩川の浸水リスクに対応して作成するのが現実的と考えられる。

実際に水害の危険が予測される場合には、調布市から出される災害・気象情報、および気象庁から発表される注意報・警報・特別警報などをこまめに収集・確認して、あらかじめ作っておいたマイタイムラインを参考に、防災行動の実行を臨機応変に判断する。なお、調布市のホームページには多摩川はもちろん、野川・入間川など市内の主要な河川について、現在と過去二日間の水位を確認できるサイトが網羅されているので、一度確認しておきたい。

（文・藤田秀雄）

## 学校周辺の安全が改善

布田小前交差点の道幅の拡幅が行われ、歩道も付いて、見通しが良くなりました。また、体育館北側のブロック塀が取り壊され、フェンスに取り換えられました。



拡幅前の通り（上）

歩道も付いた現在の通り（右）

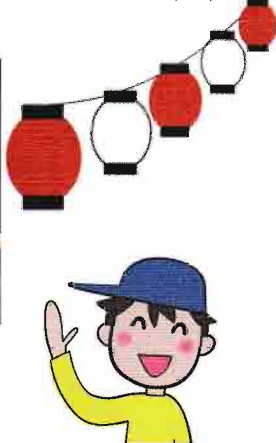


横 40m のブロック塀がフェンスに



今年の布田小盆踊りは、設営、本番、片づけ日すべてに天候に恵まれ、例年以上に多くの来場者で賑わいました。

露。注目を浴びていました。毎年おいしいやきそばを作ってくれる健全育成委員会は、分厚い鋼鉄製の高級鉄板を新調し、量、スピード、味のすべてにわたって効率が上がったそうです。また、両日とも近くに住む女性有志の皆さんが浴衣を着て櫓を囲んで踊って来て会場の雰囲気は大いに盛り上げてくれました。



実行委員会では古くなった提灯を寄付協賛を募りながら二〜三年かけて入れ替える予定で、今年もその一部が新しくなっていました。江原校長先生は、学生時代から友人たちとバンドを組み、そのドラムパーカッションは30年だそうで、和太鼓の腕前を櫓の上で披



江原校長先生の和太鼓



新調された鉄板



新しくなった提灯

## 布田小地区ハッピータウン協議会 新任の運営委員さん



中村 竜さん

平成30年4月から調布市社会福祉協議会の地域福祉コーディネーター(CSW)として布田・染地・杉森小学校区域を担当しています。これから地域の活動に参加し、みなさまに地域のことを教えていただきながら、少しでもお役に立てるように尽力したいと思います。どうぞよろしくお申し上げます。

(なかむらりょう)



北島 正也さん

調布市社会福祉協議会で地域支え合い推進員を担当しています。主に65歳以上の方が住みやすい地域の仕組み作りに取り組んでいます。布田地域の特徴や魅力を皆様に教えていただきながら、仕組みを一緒に考えたいと思っています。どうぞよろしくお願いたします。サッカーが好きなので、休日は市内のグラウンドにいます。

(きたじままさや)



大沼 静子さん

今年度約10年ぶりに、こころの健康支援センターに異動してまいりました。「ハッピータウン」という響きを初めて聞いた際には、みなさまの熱い思いを感じました。いろいろな活動に参加させていただきながら、出会いを大切に、一人でも多くの方々とお互いに顔のわかる関係になれますよう、よろしくお願いたします。

(おおぬましずこ)



小川 信行さん

今年度から染地児童館の館長として勤務し、運営委員となりました。布田小地区は、染地に生まれ、布田・染地に20代まで過ごした私にとって、大切な故郷です。水と緑に囲まれ自然豊かなこの地域が、さらに皆様にとって住みよい街になるように、微力ながらお手伝い出来ればと思います。

(おがわのぶゆき)



斉藤 基規さん

今年度より布田小開放委員長になりました。二人の子供は布田小を卒業し私自身は布田サッカークラブでコーチとして現在も活動しています。ここには学生時代から20年以上住んでいますが大きな変化はありませんが安全面については毎年改善されて住みやすい環境だと思っています。お世話になっているこの地区に協力出来ればと思います。

(さいとうもとき)

**運営委員募集中!**  
★年6回の運営委員会  
★防災教育の日 避難所訓練  
★地域の安全安心活動  
お近くの上記運営委員にお尋ねください



## はっぴーなきずな

あの日「ローマ」が「リオデジャネイロ」に変わって東京五輪音頭がこれからあちこちで聞くことになりそう。50年前動員で駒沢競技場でホッケーを観戦した五輪体験者として、五輪音頭は今でも歌うことができるほど刻みこまれて?いる。当時は(五輪音頭が)商業主義だとか色々論議があったようだが、半世紀たって東京では盆踊りの定番になり、立派なオリンピックの遺産になったようだ。(代田詠三)

いつ起こるか分からない天変地異。予想もしない地震、洪水、台風など。今回の台風の進路には驚かされました。人生初めての経験でした。この先、何が起こるか心配ですが、自分の身は自分で守る、これを肝に銘じ、しっかり前を向いて生きて行こうと思う。

(中谷俊一)